

東京歯科大学と慶應義塾大学との合併について

布施 修一郎(6組)

11月26日、27日に各メディアに慶應義塾大学と私の母校東京歯科大学が2023年に合併するとの情報が流れた。我が母校は、歯学部のある大学としては日本で最も古く、創立130年を迎えている。益々の少子化の中、大学の在り方が模索されあちこちでの合併が見られる。慶應大学は既に、数年前、共立薬科大学と合併しているが、東京歯科大学と合併すると、医学部、歯学部、薬学部に加えて看護医療学部もあるので、私立大学では初めて医療系4学部を擁することになり全部で11学部となる。

慶応と東京歯科の関係は、創設者の高山紀齋が1870年慶應義塾に入塾し、1890年に現在の慶應義塾三田キャンパスにほど近い芝区伊皿子坂（いさらごさか）上（現港区三田四丁目）に高山歯科医学院（現在の東京歯科大学）を開校したことに始まります。

同大学の建学者である血脇守之助は、1889年慶應義塾を卒業後、1893年高山歯科医学院に入学、歯科医師資格を取得しました。そして、1900年に高山歯科医学院を引き継ぎ、東京歯科医学院を設立しています。高山歯科医学院では著名な野口英世を書生として雇っていたことは有名です。そんな関係から、私の在学中にも慶応の方から合併の話が上がりましたが、伝統を重んじる卒業生らの反対があり実現しなかったと聞いております。

母校が無くなるのは寂しさを覚えますが、時代の波には逆らえないようです。それにしても、2023年からは履歴に旧東京歯科大学(現慶應義塾大学歯学部)卒業と記載することになるのでしょうか、どことなく変な感じですが、まずは慶應義塾大学と正しく書けるようにせねばと思っております。